

美しいばらの育て方

美しいばらを育てるには

- せん定
- 施肥
- 適切な薬剤散布
- 適度な水やり

が重要と言われていますが、何よりも愛情をもってばらに接することが大切です。

01 はじめに

ばらは、「原種」「オールドローズ」「モダンローズ」の3つに大きく分けられ、また、「つる性」か「非つる性」か、「一季咲き」か「四季咲き」かに細かく分類されています。ここでは、モダンローズ四季咲き大輪種ハイブリッドティー（HT）を美しく咲かせるための方法について説明します。

02 ばらの主な種類

ハイブリッドティー（HT）は、樹高1~1.7mきっと上を向いた大輪の花が咲くことが特徴で、市内の多くのところで目にできる種類のばらです。市のばら『ローズふくやま』も、この種類です。このほか、代表的なばらの種類として、樹高が1m前後とコンパクトなフローラバンダ（FL）と呼ばれるもの（四季咲き中輪房咲き）やいろいろな仕立てが楽しめる枝の長さが2m以上になるつるばら類クライミング（CL）、小さな可愛らしい花を次々と咲かせる四季咲き小輪房咲きのミニチュア（Min）などがあります。

03 ばらの植えつけ

日当たりと風通しの良い場所を選ぶことが重要！

(1) 植え付け、植え替え時期

「新苗」は 4月~5月
「大苗」は 11月~2月

「庭植え」の場合

日当たりのよい場所に有機質の肥料（骨粉入り油かす等）を施して植えましょう。

「鉢植え」の場合

ミニばらは6号程度、中~大輪は8号以上の深鉢に根や接ぎ木部を傷めないように注意しながら、接ぎ口が地表に出る程度に植えつけましょう。

大苗の植え方



(2) 摘蕾(てきらい)・花がらせん定

「新苗」 新苗は植えつけのときに、つぼみを摘み取り、その後も、次々にでてくるつぼみは、摘み取りましょう。この作業は8月いっぱいまで続け、花は秋に咲かせましょう。

「大苗」 大苗には摘蕾作業の必要はありませんが、花が終わったら早めに5枚葉を1枚つけて切り取りましょう。また、すでに植えてあるばらも同様のせん定をしましょう。

ポイント！ 新苗は幼く、つぼみがついたら思い切って摘み取りましょう。花がもったいないう気持ちに勝ち、ばらの樹の充実(根の発育)を図るのが賢明です。今後の生育に大きな差ができます。

04 せん定

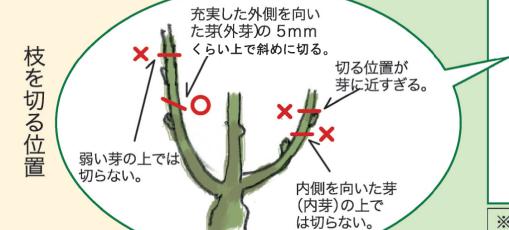
春(2月下旬)と秋(8月下旬~9月上旬)には、必ずせん定をしましょう。ばらは、新しく伸びた幹に良い花が咲きます。古い幹や枯枝を切ることで、新しい幹や枝の充実を図ることができます。また、混み合った枝を切ることで風通しや採光が良くなり、病害虫の予防にもなります。

(1) 春のせん定

枝の整理や樹高の調整を行うことによって、春の花の数を制限し、美しい花を咲かせるために行います。

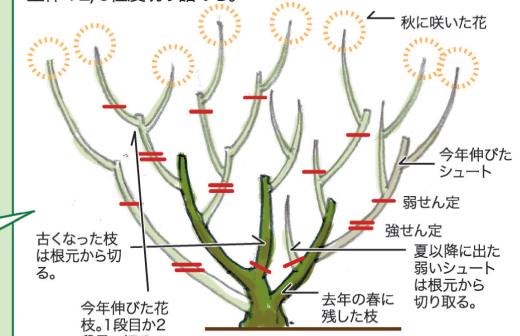
もし、このせん定を行わないと、昨年伸びた細い枝の先端から細い芽が何本も伸びて、病気にかかりやすい細い枝になり、美しい花も咲かないで注意。

枝を切る位置



HTの春のせん定

全体の2/3程度切り詰める。



※「シュート」とは株元や幹の下から勢いよく出て来た新しい太枝のこと、将来花を咲かせる枝となります。

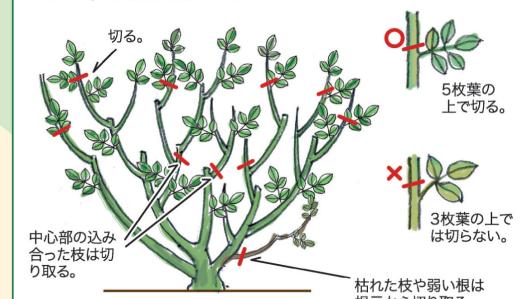
(2) 秋のせん定

夏の終わりとともに、開花後の花がらせん定を行ってもあまり美しい花が咲かなくなるのは、気温が高く芽の伸張が早いために短期間で花が咲くことや、枝葉が多くなって栄養分がそれぞれの枝に分散することが原因です。美しい花が咲く適温は18°Cぐらいで、しかも芽の伸长期が長期間30°Cを越えないことが理想です。

せん定後、45日~50日ぐらいで開花するので、8月下旬~9月上旬にせん定をしましょう。このとき、細い枝、枯れた枝、枝の内側に向かって伸びている枝をつけ根から切り取るのがコツです。

HTの秋のせん定

全体の1/3程度切り詰める。

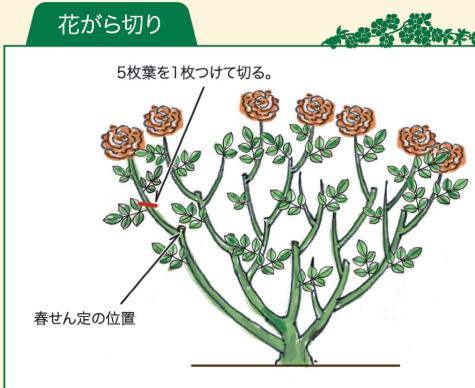


ポイント！

葉は、光合成を行う大切な役割を担っています。病害等で葉がない場合は、秋せん定をせず花摘みを繰り返しましょう。

花がら切り

5枚葉を1枚つけて切る。



(3) 花がら切り

開花済みの花は、早めに5枚葉を1枚つけて切り取りましょう。

